



●病・医院名欄

千寿製薬株式会社

子どもの眼

三歳児健診で 弱視の早期発見を

■監修■

日本小児眼科学会
—三歳児健診検討会—



日本小児眼科学会
—三歳児健診検討会—

大島健司

黒田紀子

湖崎 克

瀧畑能子

田中尚子

初川嘉一

八子恵子

羅 錦營

(50音順)

執筆：瀧畑 能子

子どもの眼

三歳児健診で
弱視の早期発見を

●目次●

1. 視機能の発達 2

3 2. 弱視って？

3. 弱視の原因は？ 4

6 4. 弱視の早期発見は？

5. 弱視の治療は？ 7

8 Q&A

近視・遠視・乱視 13

1 視機能の発達

生まれたばかりの赤ちゃんは、0.01くらいの視力しかありません。生後3ヵ月になると0.1、6ヵ月で0.2くらいの視力になると考えられています。3歳までに視力は急速に発達し、3歳で0.6~0.9、5歳では1.0以上となり視力は成熟します。だから、三歳児健診で視力がきちんと発達しているかどうかをチェックして、異常を発見することはとっても大切なことなのです。視力は生まれた時にはまだまだ未熟ですが、「くっきりと見る」ということによって発達していくのです。

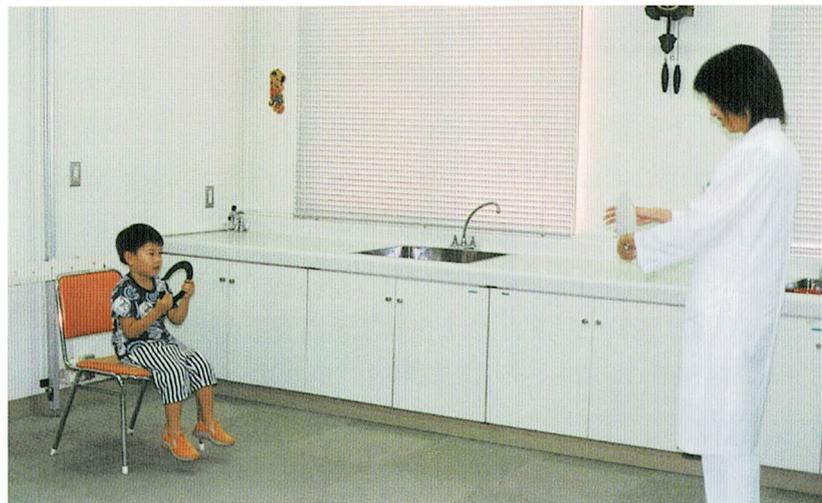
また、私たちの目は左右2つあり、両目で物を立体的に見ています。片目だけ見ると遠近感が悪くなりますね。このように両目で物を見る機能を両眼視機能といいます。この両眼視機能も視力と同じように、生まれてから「物を両目で同時に見る」ということで発達していくのです。もっと詳しく

いうと両眼視機能は視力の発達よりも早期に発達してしまいます。遅くとも2歳までに両目で同時に物を見る機会がなかった場合、両眼視機能は得られないといわれています。



2 弱視って？

視力の発達する期間(生後すぐ~5・6歳)に、眼の病気・異常・けがなどがあり、「物をくっきりと見る」ことが妨げられると視力の発達は遅れてしまいます。これを「弱視」といいます。



3歳児健診の視力検査のイメージ写真

こどもの眼の異常は早期発見が大切

残念ながら先天的な眼科疾患の中にはどんなに早期に発見・治療しても治らない重篤なものもあります。しかし、早期(生後3ヵ月以内)に発見し治療すればかなり良い治療結果が期待できるものも多いです。次のような心当たりがある場合は三歳児健診を待たずに早く眼科受診しましょう。

- 目の大きさ、形がおかしい
- 目がゆれる
- 瞳が白くみえる
- 目つきがおかしい
- まぶしがる
- いつも目やに、涙が出る

3 弱視の原因は？

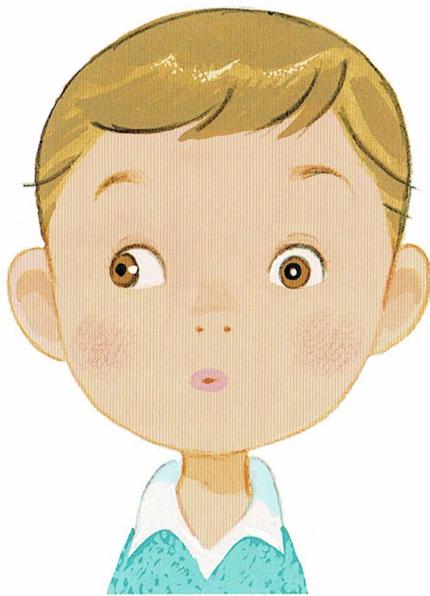
弱視の原因は次のように分類されています。

1) 斜視弱視

片方の目の視線がずれている状態(斜視)ではその目は物を見ていない状態になり、視力が発達しません。生後6カ月未満で発症する乳児内斜視という疾患がありますが、もし、早く発見して治療しなかったら斜視弱視になってしまって、おとなになってからでは視力を出すことができません。私たちも残念ながら発見が遅く治療できなくなってしまった乳児内斜視の患者さんを診察したことがあります。弱視になってしまった目の視力は、眼鏡で矯正しても0.1とか0.2しか出ないことが多いです。



内斜視



外斜視

2) 不同視弱視

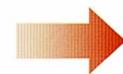
片方の目に強い遠視や乱視があると、その目はぼんやりとした(ピンぼけの)物しか見ることはできません。これを不同視といいます。この目はくっきりとした物を見る機会がないので視力の発達は途中までで止まってしまいます。

3) 屈折性弱視

両方の目に強い遠視や乱視があると、いつもぼんやりとしたものしか見ることはできず視力の発達が止まってしまいます。

4) 形態覚遮断弱視

まぶたがいつも下がっていて黒目(瞳孔)をおおっている眼瞼下垂や眼帯で目をおおっていた場合、その目には光が入りません。その目は物を見ることができず、視力が発達しません。また、先天白内障といって生まれた時から白内障があって水晶体が濁っていると、目の中に光が十分入りません。早く発見して手術しないと、とり返しのつかないことになってしまいます。



めがねを
かけて
治療すると



4 弱視の早期発見は？

弱視の目は生まれてからずっと物を見ていないか、あるいはピンぼけの状態でごくぼけています。両目が弱視の場合は、テレビや絵本をととても近づいて見たり、目を細めたりすることがあります。片目の弱視の場合は、良いほうの目を隠すととても嫌がったりすることがあります。しかし、症状が何もなくてまったく気づかない場合も多いのです。目つきがおかしい(斜視)など、保護者の方々が見てわかるものは多くありません。

そこで、三歳児健診の価値があるのです。三歳児健診での視力検査で低い値が出て、保護者の方々はふだん全然症状がないから、きつとうまく答えられなかっただけだろうと思っていることがあります。それは大きな間違いです。普段から症状があるのなら、わざわざ視力検査をしなくても発見できるのですが、残念ながら無症状である場合がほとんどなのです。三歳児健診はとっても大切な健診です。



5 弱視の治療は？

弱視の治療で重要なことは早く発見して早期治療を行うことです。視力の発達期間を過ぎてから治療を始めても、治すことができません。弱視の治療は原因になっている疾患によって違います。

斜視が原因なら良いほうの目を眼帯(アイパッチ)で隠して悪いほうの目だけを使う時間を作ります。悪いほうの目の視力が発達してから斜視の手術を行うことが多いです。斜視の種類によっては先に手術するものもあります。まず、遠視の眼鏡をかけてから手術をする斜視もあります。

遠視や乱視などが原因の片目だけの弱視の場合は、眼鏡をかけてピントをあわせてくっきりと物が見えるようにした上で、良いほうの目をこの図のように眼帯(アイパッチ)で隠します。

遠視や乱視が原因になっている両目の弱視の場合は、眼鏡をかけて物を「くっきり見る」ことによって視力を発達させます。この眼鏡は常にかけておくことが大切です。本を読む時だけとか授業中だけかけても、弱視の治療としては不十分で効果があまり得られません。

眼瞼下垂・先天白内障が原因のものは、まずその手術をします。

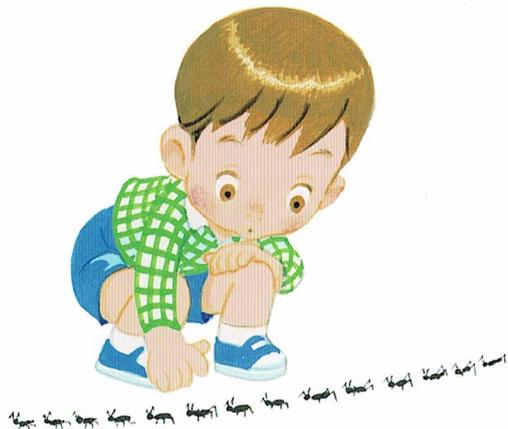


Q1 うちの子は目がいいと思うのですが、三歳児健診で視力検査が必要ですか？

A1 三歳児健診で弱視が発見された子の多くは普段の生活では何も症状がなく、家族は目が悪いなんて思っていなかったことが多いのです。私たちおとなは新聞の字を読んだり車を運転したりしますので、少しでも見にくいと「おかしいな」と自覚します。でも、乳幼児は言葉では「見えない」といいません。両目ともとても視力が悪い子は、テレビをくつつくようにして見るなどしぐさで保護者が気づくことがありますが、片目だけの弱視の子は、まず気づくことはありません。視力検査をして初めてわかるものなのです。

また、乳幼児は0.2程度の視力があれば日常生活は不自由なく送ることができます。三歳児健診で弱視が見つかった子の保護者が「小さな虫や遠くの飛行機を誰よりも先にみつけるのに」と驚かれることがよくあります。しかし、弱視であれば早期治療しな

いとおとなになってからでは、もう手遅れで治療できないのです。



Q2 弱視の子は多いのですか？

A2 弱視は1~2%といわれています。滋賀県（健診受診率88.6%）では治療が必要な弱視の子は1.4%でした。



Q3 三歳児健診で弱視といわれ眼鏡をかけるようにいわれました。こんなに早くから眼鏡をかけなくてはならないのでしょうか？ この子の姉も目が悪い(近視)なのですが、眼鏡は小学4年生からでした。

A3 この3歳の弱視の子が眼鏡をかけないで10歳になってから眼鏡をかけても、もう視力の発達期間が終わっていますから良い視力は出ません。手遅れになってしまいます。お姉ちゃんは後天性の近視で、もともと視力が発達した後から起こった近視なので眼鏡をかけたらよく見えているはずですよ。

裸眼視力(眼鏡もコンタクトレンズも使わずに自分の目だけで見た時の視力)が悪くても、矯正視力(眼鏡やコンタクトレンズでの視力)が1.0あるなら3歳から眼鏡をかける必要はありません。この3歳の子は治療が必要で眼鏡は薬のようなものです。この場合は眼鏡の費用は医療費控除の対象になります。しかし、お姉ちゃんの場合は治療は必要でなく、眼鏡は物を見るための補助道具です。



Q4 三歳児健診で弱視といわれ眼鏡をかけるようにいわれました。いつまで眼鏡をかけなくてはならないのでしょうか？

A4 弱視を治療しても、残念ながら裸眼視力が良くなるわけではありません。弱視の子はどんなに良い眼鏡やコンタクトレンズを使っても年齢相当の視力がないのです。弱視治療の目的は「矯正視力」で1.0を出すことだと考えてください。

なお、子どもが成長するにしたがって遠視や乱視の程度が変化することはあります。弱視を克服して矯正視力1.0となった後に、幸運にも遠視や乱視の程度が変化した結果、裸眼視力で不自由なく生活でき、眼鏡が不要になる場合もありますが、弱視治療が終わった子が、みんな眼鏡をはずすことができるわけではありません。



Q5 弱視治療のため眼鏡を常にかけています。毎日2時間良いほうの目に眼帯(アイパッチ)をして悪いほうの目だけで見る時間も作っています。家庭でできることは、ほかにないのでしょうか？

A5 眼鏡をかけて細かい物をしっかり見ることが弱視治療の基本です。目が悪いからといって、遠くの緑をぼんやり見ているだけでも治療の効果は出ません。眼鏡でピントを合せてテレビをしっかりと見たり、細かいぬり絵やパズルをして目を使ってください。新聞の字さがしなども効果的です。



遠視・近視・乱視

外から入ってきた光は角膜で屈折し水晶体でピントを合わせ、網膜に像が結ばれます。その像は視神経から脳に伝えられます。しかし、網膜にピントの合った正しい像が結ばれない状態を「屈折異常」といいます。屈折異常には近視・遠視・乱視があります。近視は網膜の前で像が結ばれる状態で、遠視は網膜の後ろに像が結ばれます。乱視は角膜がラグビーボールのようになっていて縦と横のピントが合わない状態です。

